

武蔵野市立第一中学校改築基本計画 概要版

○ 計画の背景と目的

市では、令和2(2020)年3月に策定した『武蔵野市学校施設整備基本計画』に基づき、今年度より武蔵野市立第一中学校（以下「第一中」という。）の改築に着手し、本年6月より、学校関係者、保護者、学区内在住者、地域団体代表者で構成する「武蔵野市立第一中学校改築懇談会」でご意見をうかがいながら、『武蔵野市立第一中学校改築基本計画』（以下「本計画」という。）の策定を進めてきました。

本計画では、第一中の改築事業を進めていく上での基本的な考え方を示すとともに、今後第一中の設計を行うための、新たな学校施設の規模、配置及び事業スケジュール等与条件の整理を行います。

また、全体計画に基づき、第一中の次に実施する予定の武蔵野市立井之頭小学校（以下「井之頭小」という。）の改築にあたっては、井之頭小が第一中の校地に仮移転する必要があるため、井之頭小改築事業との関連及び現時点で想定される影響等についても整理します。

○ 第一中の現況



住所：中町3-9-5

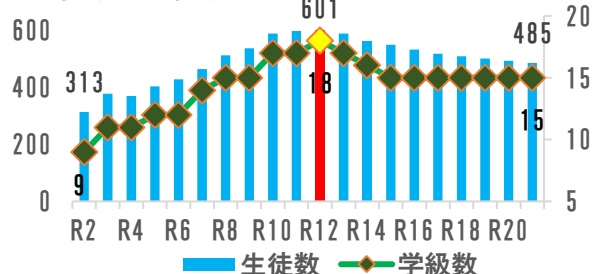
番号	施設	建築年度	構造	階数	面積㎡
①	校舎棟	S38	RC	4	5,880
②	西校舎増築棟	S58	RC	2	372
③	音楽室棟	S63	RC	2	337
④	体育館棟	S57	SRC	5	4,030
門	敷地出入口	—	—	—	—
倉	他 倉庫等	—	—	—	—

構造凡例：RC=鉄筋コンクリート造、
SRC=鉄骨鉄筋コンクリート造

敷地内の主な植栽

- 杉 ヒマラヤスギ（市指定シンボルツリー）
- 松 クロマツ
- 植1 岩石園+植込（サツキツツジ、ヒサカキなど）
- 植2 生垣（カイズカイブキ、ベニヤカナメモチなど）
- 植3 並木（ヒマラヤスギ、サクラ、サツキツツジ）
- 植4 並木（イチョウ）

○ 生徒数・学級数



しばらく増加する傾向にあり、ピークの令和12(2030)年には、現在の1.92倍程度、増加すると予測しています。そのため、ピークに合わせた生徒数・学級数を想定した施設整備を進めます。

現在（令和2(2020)年5月1日）：313人、9学級
ピーク（令和12(2030)年）：601人、18学級

○ 改築計画施設の予定規模

延床面積：校舎棟 約8,000㎡、体育館棟 約1,150㎡
付属建物 約320㎡
階数：校舎棟 地上4階建て、体育館棟 地上1階建て（一部2階建て）
構造：鉄筋コンクリート造（体育館棟は一部鉄骨造）

○ 構成諸室

【校舎棟】

- ・普通教室（普通教室、習熟度別学習室、多目的室）
- ・特別教室（理科室、音楽室、美術室、技術室、家庭科室）
- ・ラーニング・コモンズ（学校図書館、多目的室）
- ・管理諸室（事務室、校長室、応接室、主事室、職員室、印刷室、大会議室、職員更衣室、倉庫、保健室、教育相談室）
- ・特別活動・生活諸室（生徒会室、進路指導室、放送室、児童・生徒用更衣室、リフト室）
- ・共用諸室（トイレ、倉庫・教材室等）
- ・特別支援諸室（特別支援ブレイクーム、特別支援指導教室、特別支援学級（難聴）、職員室）
- ・PTA・地域（PTA室、多目的室（開放用）、開放管理室）

【体育館棟】

体育室、器具庫、更衣室、トイレ、防災倉庫、備蓄倉庫等

○ 基本方針

第一中学校の特徴や伝統、文化を生かしながら改築事業を行うための方針です。

- ・生徒の自主的な活動を支援し、多様性に応える柔軟な施設
- ・地域の拠点として、様々な交流・連携を育む学校
- ・知・徳・体をバランス良く育み、将来にわたり探究的かつ協働的な学びの充実に資することができる施設

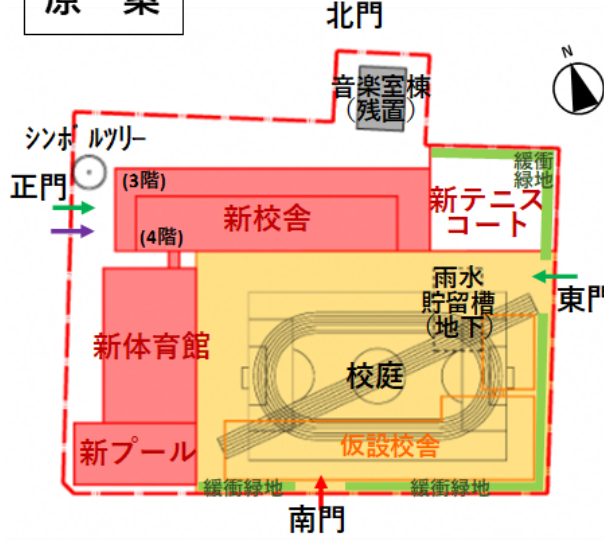
第一中学校配置計画の考え方

校舎の位置を北・南・東・西にそれぞれ配置した4案を候補とし、改築懇談会での議論、近隣住民へのアンケートを経て、校舎を北に配置する計画とすることにしました。また、全体計画において、可能な限り仮設校舎は設置しない方針としていますが、第一中については井之頭小改築中、小学校の仮校舎として利用する必要があることから、小学生の利用を前提とし、児童の安全性、快適性を優先した仮設校舎を建設します。

また、改築懇談会委員意見、近隣住民アンケートにおける意見を参考に、現段階の課題を解決する案として、改築懇談会で議論をしながら、修正案を整理しました。

令和3年度からはじまる基本設計の中で、修正案を前提として、さらに配置計画の詳細を具体化していきます。なお、この修正案は施設のおおまかな配置を示すものです。設計の中で多少変更する可能性があります。

原 案

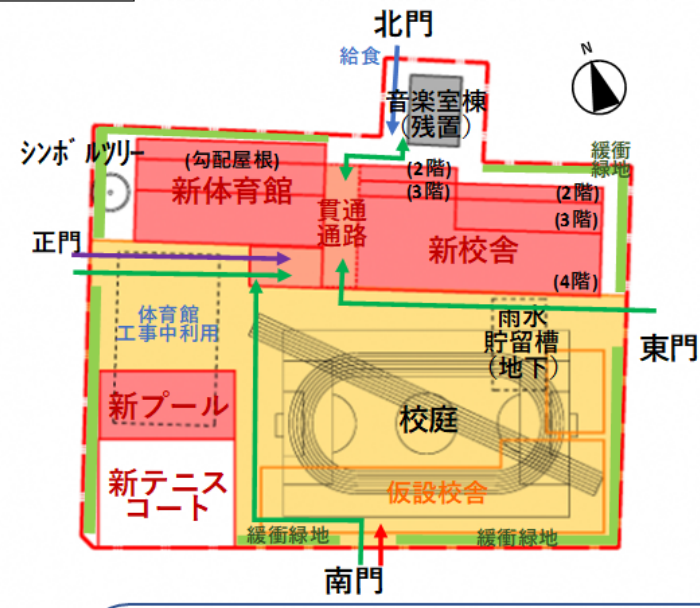


仮設校舎を建設し、引越し後に既存校舎・体育館を解体、跡地に新校舎・新体育館を建設するプラン。既存の配置に最も近いプランであるが、日影規制により、建物北側が階段状になる。生徒の動線は、既存の正門からのアプローチとなる。工事期間中は体育館が使用できなくなるため、近隣の施設を利用する必要がある。

- 課題
- ・校庭面積が若干狭い。
- ・テニスコートの位置が既存の南西角から北東角になるため、あらたな周辺への影響が懸念される。
- ・工事中、体育館が利用できない。

- 凡 例
- 計画建物
 - 仮設建物
 - 解体建物
 - 生徒動線
 - 地域開放動線
 - 緊急車両動線

修正案



想定建物高さ
新校舎 地上4階（17m）
新体育館 地上1階、一部2階建（14m）

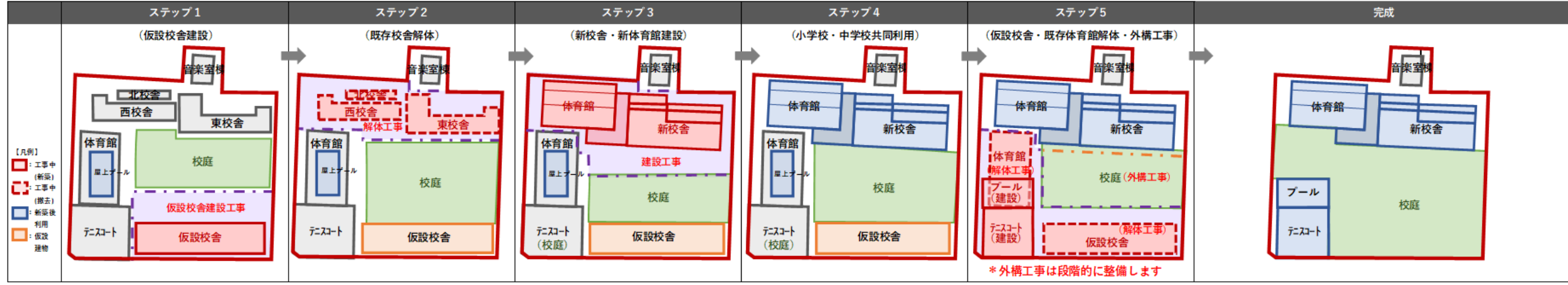
近隣への音や砂ぼこりに配慮するとともに、工事中生徒が体育館を利用できるようにするため、原案から、新体育館の位置を北西に変更し、新校舎を連続して、現在の校舎の北東の角の位置まで伸ばすプラン。既存体育館の解体時期が遅くなるため、工期が長くなる。また、新体育館は既存体育館を避けた形状となり、北側屋根が勾配屋根になる。

- 改善点
- ・原案よりも校庭が広くとれる。
- ・新体育館を北西側に配置することで、既存校舎と同様に建物が東西方向に長くなり、校庭と北側隣地との間の緩衝材となる。
- ・工事期間中、既存体育館（3階図書館、視聴覚室、多目的室を含む）を使用できる。
- ・小中共用時に新体育館を中学校、既存体育館を小学校が使用可能。
- ・既存体育館3階部分が利用できることで、仮設校舎面積縮減が可能。
- 注意点
- ・日影規制などにより、体育館の北側天井高さに制約が生じる。
- ・井之頭小が新校舎に引越し後、既存体育館を解体するため、工期が他の案より約1年長くなる。
- ・工事中、若干校庭が狭くなる。（既存体育館が利用できる。）

想定工程
(修正案)

年	令和2年度(2020年度)	令和3年度(2021年度)	令和4年度(2022年度)	令和5年度(2023年度)	令和6年度(2024年度)	令和7年度(2025年度)	令和8年度(2026年度)	令和9年度(2027年度)	令和10年度(2028年度)	令和11年度(2029年度)
ステップ		ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4	ステップ5	ステップ6	ステップ7	ステップ8	ステップ9
設計	基本計画	基本・実施設計								
工事		仮設校舎建設	仮設校舎へ引越	既存校舎解体	新校舎・新体育館建設	新校舎へ引越			プール・テニス・外構	
			一中生徒 仮設校舎利用期間			井之頭小児童 仮設校舎利用期間			仮設校舎・既存体育館・テニス解体	

想定工事
ステップ図
(修正案)



○ 整備方針（抜粋）

（教室・教室まわり）

- ・感染症対策に配慮し、教室と廊下の可動式間仕切壁の設置や、適切な換気方法等を検討します。
- ・国や東京都の少人数学級導入の動向を見ながら、対応を検討します。

（ラーニング・コモンズ）

- ・探究的かつ協働的な学習活動を支援するため、学校図書館の機能に、ＩＣＴ機器を活用できる環境を兼ね備えたラーニング・コモンズを整備します。

（体育施設）

- ・プールは平置きとし、安全性に十分配慮しながら、外部からの視線を遮る工夫を行います。
- ・校庭は、学校周辺への砂ぼこり対策として、散水設備、砂ぼこりの発生しにくい材料や緩衝緑地の整備を検討します。

（バリアフリー・ユニバーサルデザイン）

- ・『高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（通称：バリアフリー新法）』に準じて、エレベーター、階段等への両側手すり、スロープ等を設置し、すべての生徒、教職員等が安全かつ円滑に学校生活を送ることができるようにします。

（設備・構造）

- ・各居室に冷暖房、換気設備を設置します。
- ・将来の人口減も見据えて、空き教室を他の用途の室に容易に転用することができるよう、スケルトン・インフィルとします。

（防犯対策・安全対策）

- ・機械警備、門扉の電気錠、防犯カメラ、校内内線電話、学校 110 番を設置します。
- ・付属施設や非構造部材も含めて、十分な耐震性能を確保します。

（地域連携・開放施設）

- ・開放エリアと学校エリアを適切にゾーニングするとともに、地域のコミュニティルームとしても活用できるよう、開放用多目的室を開放エリア内に整備します。

（避難所）

- ・体育館とマンホールトイレなどは、防災機能を担う諸室、設備と連携しやすい配置とします。
- ・災害時には、開放用の多目的室を「おもいやりルーム」として利用できるようにします。
- ・自立運転機能付きの太陽光発電設備を導入し、災害時にも利用できるようにします。また、蓄電池など非常用電源の導入についても、検討します。

（環境との共生）

- ・省エネルギー化など環境配慮型施設的具体化を検討します。

（改築工事中の対応）

- ・学校の教育活動に負担がかからないよう、配置計画等、可能な限り配慮を行います。

（第一中の特徴を活かした整備方針）

- ・音楽ホールを残した設計とします。
- ・中央コミュニティセンターとの連携を考慮し、西側に正門を設置します。
- ・特別支援学級（難聴「エコールーム」）について、教育上効果的な配置を検討します。
- ・かたらいの道沿いに歩道状空地を整備するとともに、景観に配慮した設計とします。
- ・敷地内に落ち葉溜めを設置し、市民団体によるたい肥製造を継続します。

○ 井之頭小改築との関連

井之頭小が第一中に仮移転することにより、一部の児童の通学距離の延長や通学路の変更が発生します。

また、同敷地内に小学校と中学校が共存するため、校庭やプールなどの使用等において調整をしなければならないことが想定されます。

これらの課題に対し、より良い教育環境を確保するための対策を検討していきます。

令和 3 年 1 月
武蔵野市教育委員会
教育部教育企画課

学校名	年度										
	2020 令和 2	2021 令和 3	2022 令和 4	2023 令和 5	2024 令和 6	2025 令和 7	2026 計画改定 令和 8	2027 令和 9	2028 令和 10	2029 令和 11	2030 令和 12
第一中学校	基本計画	基本計画 実施設計	基本計画 実施設計	基本計画 実施設計	基本計画 実施設計	基本計画 実施設計	基本計画 実施設計	基本計画 実施設計	基本計画 実施設計	基本計画 実施設計	基本計画 実施設計
井之頭小学校	現在	基本計画 実施設計	基本計画 実施設計	基本計画 実施設計	基本計画 実施設計	基本計画 実施設計	基本計画 実施設計	基本計画 実施設計	基本計画 実施設計	基本計画 実施設計	基本計画 実施設計
平成18(2006)年4月2日～ 平成19(2007)年4月1日生	中2	中3	仮設校舎建設の影響を受ける学年	中学校用地を共同利用する期間							
平成19(2007)年4月2日～ 平成20(2008)年4月1日生	中1	中2	中3								
平成20(2008)年4月2日～ 平成21(2009)年4月1日生	小6	中1	中2	中3							
平成21(2009)年4月2日～ 平成22(2010)年4月1日生	小5	小6	中1	中2	中3						
平成22(2010)年4月2日～ 平成23(2011)年4月1日生	小4	小5	小6	中1	中2	中3					
平成23(2011)年4月2日～ 平成24(2012)年4月1日生	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3				
平成24(2012)年4月2日～ 平成25(2013)年4月1日生	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3			
平成25(2013)年4月2日～ 平成26(2014)年4月1日生	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3		
平成26(2014)年4月2日～ 平成27(2015)年4月1日生	5歳児	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2		
平成27(2015)年4月2日～ 平成28(2016)年4月1日生	4歳児	5歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1		
平成28(2016)年4月2日～ 平成29(2017)年4月1日生	3歳児	4歳	5歳	小1	小2	小3	小4	小5			
平成29(2017)年4月2日～ 平成30(2018)年4月1日生	2歳児	3歳	4歳	5歳	小1	小2	小3	小4			
平成30(2018)年4月2日～ 平成31(2019)年4月1日生	1歳児	2歳	3歳	4歳	5歳	小1	小2	小3			
平成31(2019)年4月2日～ 令和2(2020)年4月1日生	0歳児	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小1	小2			
令和2(2020)年4月2日～ 令和3(2021)年4月1日生		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小1			

工事の影響を受ける児童・生徒